



「檜山中区配水池築造工事(第7次拡張事業)」
昭和38年(1963年)～42年(1967年)

第7次拡張事業は、檜山中区配水池の築造、導水管、送水管、配水管敷設のほか薬品沈殿池などを新しく設けるもので、工費約2億3,000万円を投じ昭和38年11月着工、42年3月完工した。

給水量が予想以上に伸びたにもかかわらず、現在の濾過能力は緩速6池、急速3池を合わせて1日22,000 m^3 にすぎず、送水能力にいたっては350mm送水管により1日8,468 m^3 、400mm送水管によって1日13,032 m^3 、計21,500 m^3 が現状で、昭和37年の1日最大給水量22,487 m^3 を下回るものである。したがって本拡張工事の完遂は必須と考えられた。

檜山中区配水池(3,000 m^3)
満水位標高:51.395m